

式 辞

厳しい冬の寒さも徐々に緩み、春の息吹を感じるこの佳き日に 埼玉県議会議員 岡重夫 様、白岡市長 小島 卓 様、白岡市教育委員会教育長 福原 良男 様さらには市内各中学校長様をはじめ多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、埼玉県立白岡高等学校、第36回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことを深く感謝するとともに心からお礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与いたしました、222名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

保護者の皆様には、立派にたくましく成長されたお子様の姿を目の当たりにし、感慨も一入かと存じます。本日は誠にありがとうございます。

卒業生の皆さんの本校での3年間は決して平坦な道のりばかりではなかったことと思います。

県下に誇る熱心な生徒指導で鍛えられ、規範意識を身に着け人間として大きく成長しました。

また、学業に専念し、資格取得や早朝補習にも取り組み大きな成果を上げました。

さらに、部活動で体や心を鍛えるとともに地域の行事やボランティア活動にも積極的に参加し、白岡高校の名を大いに高めてくれました。

今日まで、学校生活の様々な場面で互いに喜びを分かち合い、苦しみを支え合って乗り越え、本日を迎えることができた皆さんの努力に対して、職員、在校生とともに、改めて敬意を表したいと思います。

本校は、昭和52年4月に開校し、以来、地元白岡市の熱い期待と多大なる御支援をいただきながら、間もなく40年の節目を迎えようとしております。

その間、多くの有為な人材を輩出し、地域に根ざした高等学校として着実な歩みを続けてまいりました。

本日、巣立っていかれる皆さんには、こうした本校の歴史と伝統の重みや地域の皆様の熱い思いをしっかりと胸に刻み、一人一人が、それぞれの立場で社会に貢献できる人間へと成長していかれることを期待しております。

さて、卒業という門出に当たり、卒業生の皆さんに餞の言葉を贈りたいと思います。

「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を聞いたことがあると思います。社会生活を送るうえでの基本を的確に言い表していると言われます。

皆さんは、白岡高校で、この三つのことを実践し、身に着けたと思います。遅刻をしな

い、清掃をしっかり行う、大きな声であいさつするなどです。

当たり前で簡単なことではありますが、継続することは決して容易ではありません。意識していないと、おろそかになってしまいます。白高卒業生として、この三原則を忘れることなく実践し続けてください。

次に、常に目標を持ち、絶えず学ぶ姿勢を持ち続けて欲しいということです。

大学に進む皆さんが卒業する、4年後は、ラグビーのワールドカップの開催が決定し、熊谷でも試合が行われます。翌年の東京オリンピック、パラリンピックの開催と合わせ、身近に世界的イベントがやってきます。

この5年の間に社会は大きく動いていくことでしょう。その流れの中で、自分を見失うことなく、新たなステージでの目標をしっかりと立て、これまで身に付けた学力や知識の積み上げはもとより、時代が求める力の習得に努めることが重要です。常に自分をバージョンアップしていくという姿勢を持ちたいものです。

3つ目は、「感謝」する気持ちを忘れないでもらいたいということです。

皆さんが、今日、こうして卒業式を迎えるまでには、様々な場面で、多くの人たちの支えがあったと思います。こうした人たちに対する感謝の気持ちを忘れてはいけません。これからも多くの人とのかかわりの中で感謝する場面は多々あると思います。そんな時には、声に出して感謝の気持ちを伝えることが大切です。今日、家に帰ったら、「ありがとうございました。卒業できました。」と声に出して気持ちを伝えましょう。

そして、こうした恩に対して自分は何ができるのか考え、少しでも還元していけるよう心掛けてください。

皆さんとの思い出で忘れてならないことがあります。2年生が始まって間もなく、交通事故で亡くなった落合優一朗君のことです。彼もまた、今日の日を夢見ていたことと思います。残念ながらここには出席できませんでしたが、きっと皆さんの門出をお祝いしてくれているものと思います。是非、彼の思い出も心に留めておいてもらいたいと思います。

皆さんの未来が大きく開けることを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、本日まで3年間、本校の教育活動に深い御理解をいただき、様々な面で御協力をいただきましたことに心より感謝いたしますとともに、本日御臨席いただきました御来賓の皆様には、今後とも卒業生並びに本校に対しまして変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月12日

埼玉県立白岡高等学校長 岩澤正明